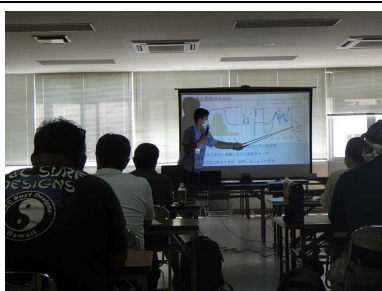


普及活動情勢報告（令和2年9月分）

中央西農業振興センター高知農業改良普及所

これであなたもキュウリ反収30t！ ～環境制御報告会を開催～



見える化、自動化、炭酸ガス
を使いこなして収量アップ！

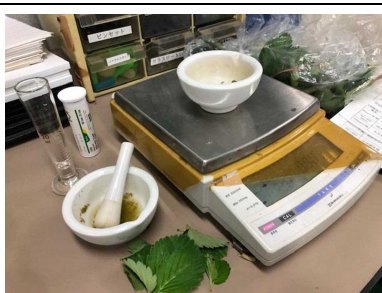
8月24日、JA高知県春野営農経済センターにおいて「環境制御報告会」を開催し、生産者20名が参加しました。

普及所はJA営農指導員と連携し、キュウリ生産者の環境制御データを基に収量アップのためのハウス内環境制御モデルを作成し、報告しました。その他にも、病害を抑えるための環境制御パターンや環境制御器の自作と導入事例についてなど、盛り沢山の内容の会となりました。

参加者からは、「設備が同じ場合の環境データの差が見てみたい」や「自作の環境制御器に興味がある」といった声がありました。

普及所は次作からIoTクラウドで収集できるデータも活用しながら、環境制御技術の更なるブラッシュアップを目指していきます。

イチゴの本ば移植へ向けて～硝酸態窒素濃度分析～



適切な窒素濃度を目指そう！

普及所では7～9月の間、週に1度、イチゴの硝酸態窒素濃度を分析しています。本分析により、苗の栄養状態を把握し、翌週までの施肥設計に反映することができます。今年度も苺部会員15戸に対して、8週間にわたり試料の採集および分析を行い、その日のうちに値の報告を行ってきました。農家からは「管理の結果が目に見えてよい」「病気・害虫も同時に見てくれるのでありがたい」等の声をいただいております。適切な育苗管理に繋がっています。

普及所では、今後もイチゴの安定生産技術の普及推進に取り組んでいきます。

多雨時期の病害防除について ～赤ピーマン目慣らし会～



生産者同士の情報交換の様子

8月28日にJA高知県春野営農経済センターにおいて、「赤ピーマン目慣らし会」が開催され、生産者4名が参加しました。JAからは販売状況や出荷規格についての説明があり、普及所からは多雨時期に発生しやすい炭疽病や斑点細菌病の防除対策について情報提供しました。生産者は今年の作柄や病害の発生状況、有効薬剤について活発に情報交換し、秋雨時期や来作に向けての予防に対する意識を高めていました。

今後も普及所は、病害防除対策等についての情報提供を行い、生産者の収量向上を支援していきます。

経営を管理しよう ～キュウリ基礎研修(経営管理)を開催～



産地分析の結果から見えてきたことを講習

8月27日、JA春野営農経済センターにおいて、第3回キュウリ基礎研修を開催しました。今回は経営管理について研修を行い、研修生や新規就農者など5名の参加がありました。普及員が講師を務め、産地の平均的な経営の姿や所得に差が出る要因、炭酸ガス施用による経営効果などを講習。個別に配布した月別出荷計画シートを熱心に見入る参加者もありました。

普及所では11月にも経営記帳に関する勉強会を計画しており、新規就農者の基礎力向上のための支援を続けていきます。

今年からピーマン栽培に取り組みます ～品目転換～



定植を終え、ほっと一息

9月9日、10日、JA高知市三里園芸部花卉部会生産者2戸のは場で、ピーマンの定植作業が行われました。花卉部会では、新型コロナウイルスの影響で売り上げが落ち込んだことから、花きから一部新たな品目の導入に取り組んでいます。令和3園芸年度には、ピーマンや新ショウガが予定されています。普及所は農協と協力し、定植や誘引の仕方、さらに天敵放飼の指導を行いました。生産者の栽培技術は高く、灌水方法や追肥開始時期、温度管理などについて熱心な質問がありました。

今後、整枝方法や病虫害対策を中心に指導していきます。

土佐山のユズと農業の明日を考える ～土佐山柚子生産組合中央研修会・移動農業委員会～



9月18日、土佐山中央公民館において柚子生産組合の中央研修会が開催され、農家・関係機関合わせて50名以上の参加がありました。前半で各関係機関より加工の概況、販売状況、営農情報等が話され、後半は移動農業委員会と合同で、基盤整備について中央西農業振興センター基盤整備課の講演が行われました。

普及所からは、今年度を実施する産地構造改革改定に向けた農家意向アンケートの説明と、動力付き軽量アシストスーツの紹介を行いました。

農家からは、農地中間管理機構関連農地整備事業について「1区50a以上の要件が厳しい」という意見も出ましたが、「最初からだめだと考えるのではなく、今後取り組んでいく方向で各地区で検討して欲しい」との意見もありました。

これから普及所は、農家や関係機関と連携して柚子産地の振興と基盤整備の推進を支援していきます。